

## 口頭発表2 / 医療安全対策、リスクマネジメント (2)、副作用、相互作用、イベントモニタリング

### 【座長】

大坪 泰昭 (山口県薬剤師会 保険薬局部会)

2019/10/13 15:10~16:10 第6会場 海峡メッセ下関 8階 801会議室

[O-02-1] 15:10~16:10

調剤業務トータル支援 ITシステムの開発 (第32報) 「理想の解析ソフト確立に向けた検討」

【筆頭著者】南 陽介 (すずらん薬局)

### 【共著者】

吉川 香奈美 (すずらん薬局)

関原 弘喜 (株式会社 クカメディカル)

片寄 勝邦 (株式会社 クカメディカル)

梶田 賢司 (株式会社 クカメディカル)

宗本 忠典 (株式会社 クカメディカル)

中室 克彦 (摂南大学)

【目的】当薬局グループは独自開発した調剤業務トータル支援ITシステム(以下ITシステム)を保険薬局へ導入し、医薬品・業務管理を行っている。そのITシステムにはピッキングデータや未然に防がれたエラー (以下エラー) データも全て保存されている。今回我々は、ここに保存されたピッキングデータ、エラーデータを1ヶ月間単位で担当別・時限別・薬品別・エラー分類別の4項目を分析するソフトを開発し、そこから得られた情報の利用による薬局運営管理の適正・合理化への現時点での有用性と今後の理想の解析ソフト確立に向けての基本的な検討を平成31年4月2日厚生労働省通知の「調剤業務のあり方について」の内容を加味して行った。

【方法】現分析ソフトからの情報について薬局業務に貢献できる事項の確認と課題の抽出を行った。

【結果】現分析ソフトが1ヶ月間単位で担当別、時限別 (日・曜日・時間) でのピッキング数、エラー数及びエラー発生率、時限別 (日・曜日) におけるピッキングに対するITシステムの使用率を表示でき、薬品別ではエラーの起こりやすい医薬品の特定が可能であることが判明した。今後の課題として、担当別でのエラー医薬品名とその内訳の表示化、時限別でのピッキングエラー、レセコン入力エラー、コード不備エラー内容の個別表示化、エラー分類別ではどの医薬品間でエラーが発生したかの一覧表示化、分析4項目において日、週、月、年間での経時変化および累積データの分析化があげられた。

【考察】現分析ソフトの使用で、薬剤師と非薬剤師のピッキング比率の確認による運営および業務の効率化、エラーの起こりやすい医薬品に対する調剤過誤やヒヤリハット発生前の定期的なエラー対策、医薬品・業務管理を目的として導入したITシステムが適正に使用されているかの確認に貢献できると考えられる。どの医薬品間でエラーが起こりやすいか等、ITシステムデータを手作業で編集し、当学術大会で発表し、現場の業務にも活かしてきたが、その作業を定期的に行うのは困難であった。今回示した分析ソフトの課題を解決する事で、いつでも任意の期間を指定すればエラー内容とその時限別傾向並びに、担当別で起こりやすいエラーが明確化でき、前述の「調剤業務のあり方について」で求められる指導・研修へ貢献し、理想の解析ソフトの確立に向け改良可能であると考えられる。

【キーワード】ITシステム、解析ソフト、調剤業務、業務管理